

THE WORLDFOLIO TRANSCRIPT

聞き手：

戦後の日本企業の発展以来、日本の製造業は大発展しましたが近年は競争力が低下の傾向にあります。今後における日本の利点はどのようなものでしょうか？

会長：

戦後、日本の製造業全体とサービス業も含みますと、日本の優れた人間性で技術開発やサービスの向上心で様々な分野で競争力を高め、他国と比較した場合には、日本の産業力は非常に優れていました。

しかしながら、日本の人件費が高騰、価格競争力が低下し今より約20年間低迷していた状態になっていました。

しかし今後、繁栄するため日本の産業は知力と体力が創造する産業に変わりつつあります。これからの日本国の発展に一番正しい方向性は、2次産業3次産業と発展しましたが、20年来の低迷から新しい日本の発展を願うとするならば、4次産業に重きをおいた産業に生まれ変わる事だと思われまます。

そこで、我々SEC エレベーター株式会社は、高度な安全性とスピーディーな顧客フォローで、徹底的に顧客第一を考えた企業の健全性を追及いたします。

聞き手：SECが開発した革新的応用の例を教えてくださいませんか？

第1にエレベーターの製造とメンテナンス。第2に新規事業のデジタルサイネージの製造と販売、第3に焼却炉を応用した熱エネルギーシステムです。

エレベーターの製造は、

中途階での閉じ込め故障を皆無にし、乗り心地とスピードの革新的な技術の開発。多様化するデザインにも対応します。

デジタルサイネージは、

従来の紙看板を廃止し、当社のデジタルサイネージ（電子看板）をもって、街及びビル・マンション等の照明としても明るくなります。公共の国民に対してお知らせ等及び企業の情報及びコマーシャル等が近未来の明るくなる事業です。

焼却炉は、

あらゆる可燃ごみを燃やし、そのごみの価値を上げ、蒸気及び熱湯等の燃料として利用する3重のメリット性を持たず画期的な焼却炉（ボイラー利用）となります。

このごみを燃料として利用する特典として、ガス及び灯油、ガソリン等を一切不要にしたランニングコストの削減に成功しております。

ごみの処理能力は、10時間辺り1トンから5トンの処理能力の開発を行っており、10時間で3トンまでは完成しております。5トンは年内完成予定です。

この焼却炉（ボイラー）は、世界的にビニールやペットボトル・シートの処理。

または、残飯や木材、あらゆる可燃性廃棄物の処理で、世界に貢献できる商品であると思えます。小型ゆえに移動も可能です。

特許関係は、EU、日本、アメリカ、中国 東南アジア、その他の国から特許取得しております。二酸化炭素、有毒ガス等の排出処理は、技術的に排出されません。

THE WORLDFOLIO TRANSCRIPT

聞き手：海外で会社を拡大しますか。

3事業は、各国で提供を求められ、注目され協力をして頂きたいという事業は、現に数か国で取引しております。

今後においても協力を求められた場合には順次拡大してまいります。

聞き手：どのように国際市場に浸透する予定ですか？

当社の事業に興味のある国々からオファーがある場合、100%の信頼性を極め、理解して頂いたら参入します。

聞き手：新しい製品ラインとして市場に導入した「デジタルサイネージ」について教えてください。

鮮明な画像が縦横1メートルから50メートルまで拡大設置できます。輝度の明るさは昼夜問わず、お客様が目にする事が出来る商品と自負しております。

現在、日本の大手不動産会社等の取引が活発に行われております。

聞き手：より多くの国際的パートナーを探していますか？

国際社会に貢献できる企業が当社とマッチングできることが第一条件として業務提携したいと思います。

聞き手：あなたのブランドを何で有名にしたいですか？

まず、ユーザーに対する安全と質の高いアフターサービス、革新的な技術の探求心を基として、迅速な対応で、お客様のニーズに答えてまいりたいと思います。

そこで、わたくしの夢は「SEC」を世界的有名なブランドにすることはもとより、世界の人々に感謝される企業を追求する品質と安全性を開発し続けます。

この流れは、43年前に私が起業家として進む道を社訓として、日々研磨されるようにと書き込んだその文字を、全社員が社会に貢献することから気持ちを続けることであると、心に刻んでおります。

下記が当社の社訓です。

(社訓)

一つの感謝を終生忘れぬ事
一口の言葉を噛み締める事
一つの行儀の挨拶から行動に移る事
一つの貨幣の重さを尊く思う事
一握りの食物をも無駄にしない事
一段づつの階段を昇りきる精神を養う事
一つ手前の能力を出しきる事
一つの安らぎを素直に受ける事
一つの苦しみを反省の念にする事
一つの行ないが万人に尊敬される事
心と行動と敏速が答である
鈴木孝夫